

## 総括研究報告書

1. 研究開発課題名：慢性腎臓病（CKD）進行例の実態把握と透析導入回避のための有効な指針の作成に関する研究
2. 研究開発代表者： 山縣邦弘（筑波大学医学医療系臨床医学域腎臓内科学 教授）
3. 研究開発の成果
  - ① **慢性腎臓病進行例の診療ガイドラインの更新**：平成 26 年度の本事業で作成したガイドラインについて、医療の質を評価する Quality Indicator (QI) 指標を活用したガイドライン遵守率を評価するため、腎臓専門医向けの QI 調査に変わる WEB アンケート調査を実施することとしてアンケート項目を検討し、翌年度の調査体制を整えた。また日本腎臓学会並びに関連学会のガイドライン改訂状況の把握を行い、更新するガイドラインが他のガイドラインと整合性をとりつつ CKDG3b 以降を対象を絞った独自性を持つガイドラインとする方針を確認した。
  - ② **特定健診コホート研究・保存期腎不全コホート研究の実施**：特定健康診査の横断・縦断調査 (H24-1 難治等(腎) 一般-006) による大規模コホート研究を引き継ぎ、CKD 重症化リスクの解析に加え、死亡個票による予後指標を加えて、わが国の CKDG3b 以降の患者数、進行状況の調査を行い、成果として、血圧変動と糖尿病、慢性腎臓病の発症に関する論文を Hypertension 誌に、中性脂肪/HDL コレステロール比と慢性腎臓病の発症と進展に関する論文を Am J Kidney Dis 誌に、尿蛋白と運動習慣の関連とそれに BMI が及ぼす影響に関する論文を J Atheroscler Thromb 誌に発表した。さらに国保データベース (KDB) を協力自治体との連携により収集に向けて協議を重ねている。また国内の腎疾患診療施設から 2000 人規模の CKD ステージ G3b 以降の患者を対象とした前向きコホート研究を立ち上げ、参加施設の募集を行い、筑波大学および日本腎臓学会の倫理委員会承認を経て 2016 年 1 月 31 日に REACH-J-CKD コホート研究としてキックオフミーティングを開催し、参加者の登録を開始した。この前向きコホート研究はアメリカ合衆国、フランス、ドイツ、ブラジルで実施中の CKDopps 研究に準拠した体制で実施され、日本からもステアリングコミッティとして参加し、海外の参加国と研究の進捗状況について会議を行い情報共有につとめた。
  - ③ **末期慢性腎不全の実態調査**：腎移植患者、保存期腎不全患者数について正確な実態調査を行うため、レセプト情報・特定健診等情報データベース (NDB) を利用した腎移植レシピエントで機能移植腎保持者ならびに保存期腎不全患者数を把握する方法を検討した。また腎移植患者の移植後実態調査を実施する準備を日本臨床腎移植学会と連携して行い、腎移植後透析再導入患者の実態把握のために次年度に行うアンケート項目作成を行った。
  - ④ **臨床研究シーズ探索**：FROM-J 研究は 3.5 年間の成果をまとめた基礎論文が平成 28 年 3 月に論文発表された。CKDG3b 以降の集団に対する有効な重症化予防診療システムの医療経済分析等を実施し、CKDG3 以降の患者に対する栄養指導等の介入を保険適用するという政策決定に伴う増分費用効果比はきわめて好ましい値であり、この介入は費用対効果に優れ、支払いに見合う価値があることがわかった。
  - ⑤ **CKD 啓発活動**：本研究の広報を目的としたホームページの立ち上げを行った。ホームページへは市民公開講座の開催や、会議の報告など研究の成果や進捗状況を随時掲載した。平成 27 年 11 月 21 日に、市民公開講座「あなたの腎臓を守るために」をつくば国際会議場で開催した。また 9 月 26 日には市民公開講座「腎臓病教室へようこそ」を Bivi つくばで開催した。
4. その他  
特になし